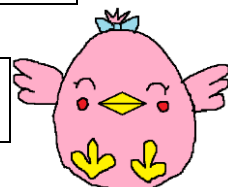


こぶしの花	☆学校教育目標☆ 日々のめあてを持ち 心豊かで 主体的に生きる力を持つ子 の育成 ～重点目標 三つの元気～ 頭の元気・体の元気・心の元気	市川市立国府台小学校 市川市国府台5-25-4 電話 372-4672 文責 校長 城戸 三郎



## 祝 国府台小学校70周年おめでとう!



昭和27年4月1日に開校した、国府台小学校。これまでに10,672人の卒業生が旅立ち、70周年を迎える今年度はあらたに、103名の児童が巣立っていきます。これまでの先人が積み重ねてきた歴史を感じるとともに、次に向かって進んでいくことの大切さと責任の重さを感じます。

保護者や地域の皆様に支えられながら歩んできたこの国府台小学校が、今後100年200年と続いていくことのできる土台を作っていくことは、今、ここにいる私たちの大事な役目だと考えています。この国府台小学校に通う児童が、大人になり、親になった時、この国府台小学校が自分の母校だと胸を張り、自分の子どもに教えてがあげられるような学校にしていきたいと思います。

これまで、そして、これからも、児童のより良い成長のため保護者や地域の皆様と歩んでいける国府台小学校であり続けます。

国府台小学校 第29代校長 城戸三郎

## お祝いメッセージ

70周年おめでとうございます。

私自身一人の保護者、またPTA会長として国府台小学校に関わらせていただき、子どもたちの元気で素直な姿や先生方の子どもたちを思いやる姿勢、学校に関心を持ち、協力的な保護者や地域の方々を見ました。

私の子どもが学区ということだけで通っていますが、学校の文化を知り、学校に関わることができてとても誇らしく思っています。

城戸校長先生が赴任してきたときに、全校朝会で子どもたちが顔を上げ、話を聞く姿勢にとっても感心していたのを今でも覚えています。

川を渡れば東京という地で、緑が多く人情の溢れる国府台という豊かな土地が育んだ素晴らしい学校の文化が70年と言わず、今後も末永く続いていくことを願っております。

国府台小学校PTA会長 杉本 厚

創立70周年を祝う

国府台小学校創立70周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。昨年コロナ禍の10月、11年ぶり4回目の同窓会を開催。17人が正門前に集合。4階建ての立派な校舎を見上げ、皆で掘った卒業記念の手作りの“ヒョウタン池”が「メダカ池」に代わっていたのは驚きでした。卒業の翌年にできたテンポのいい校歌を歌い、力強く万歳三唱して、校舎を後に旧交を温めました。

70年経った今、風格のある小学校を見るにつけ、誠に感無量なものがあります。偏に、歴代の校長先生、教職員、PTA、多くの関係者の方々のご尽力の賜物と敬意を表します。創立80周年に向かってビジョンを掲げ、より一層発展されますようお祈り申し上げます。

国府台小学校創立70周年

万歳～！！ 万歳～！！

第一回卒業生 山田 敏明

# 国府台小学校 10年間の出来事

平成24年10月27日 創立60周年記念式典祝賀会举行

26年3月31日 渡り廊下耐震工事終了

27年7月8日 千葉県吹奏楽部コンクール金賞

28年7月30日 千葉県吹奏楽部コンクール金賞

29年2月7日 正門前防犯灯設置

6月9日 市川市小学校陸上競技大会 総合優勝

7月29日 千葉県吹奏楽部コンクール金賞



30年6月8日 市川市小学校陸上競技大会 総合準優勝

7月8日 千葉県吹奏楽部コンクール金賞

12月20日 受水槽工事終了

31年6月28日 市川市相撲大会準優勝

7月24日 千葉県吹奏楽部コンクール優秀賞

10月23日 市川市小学校陸上大会総合3位



令和2年11月 塀および1号館・職員トイレ改修工事

3月25日 第一中学校ブロック地域学校協働本部

「Firstnik☆ふぁ〜すとにいく☆」

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

千葉県「ライトブルー賞」育成功労の部（団体）

3年4月1日 特別支援学級「5組」開級

10月30日 千葉県PTA主催広報紙コンクール 努力賞 広報ボランティア

千葉県PTA主催団体表彰 花ボランティア

3月 市川市地域環境美化協力表彰

4年4月1日 新一年生4クラスでスタート

特別支援学級一学級増の「5組A」「5組B」でスタート

10月 3年ぶりに国府台ふれあい祭り開催

1月25日 体育館改修工事

祝 令和5年1月27日 創立70周年記念式典開催 祝

# 国府台小学校の校歌・歴史



## 国府台小学校々歌

勝 承 夫 作詞  
平井 康三郎 作曲

一、 緑はるかに 飛べこうのとり

丘は希望の 燃えたつところ

明日の文化の 若芽が育つ

我が国府台 楽しい母校

二、 翼揃えて 行けこうのとり

富士も呼んでる 平和の空へ

皆 自律の 気風をついで

伸びゆく我等 元気な我等

三、 知恵を磨いて かてこうのとり

夢と力を 心に秘めて

花の江戸川 行手は広い

我が国府台 栄えある母校

国府台小学校の校歌は1周年記念式典に発表されました。作詞の勝承夫は昭和の初めから芸術至上主義派「詩人の会」のメンバーで、後に「歌の町」「灯台守」などの名作を残しています。「校歌は大切なもの、邪念、俗事を払って書く」という制作姿勢でありました。作曲の平井康三郎は、すでに戦前から国民歌謡、ラジオ歌謡など勝承夫とコンビを組み作曲家として活躍し、小学校の音楽の教科書も監修していました。

本校の開校は昭和27年4月です。戦後、市川市の人口が急増し、昭和26年には真間小学校の児童数が2807名とふくれあがった状況により開校しました。しかし開校したものの教室が足らず、1、2年生は真間小の児童の授業が終わった後に登校して授業を受けるいわゆる2部制だったそうです。開校時は、真間小から高学年生が行列して椅子を運んだり、備品運搬や清掃を保護者の方々に担っていただいたり、苦労も多かったようです。そして、20年後の昭和47年には本校在籍児童数が1430名(34学級)となり、中国分小学校が開校し分離しました。主な現施設については、校舎は第一がS43、第二がS47、第三がS51(55)に竣工、プールはS40、体育館はS63に完成です。プールは完成まで菅野小に徒歩で通っていたそうです。

一方、そもそもこの「国府台(鴻之台)」の名称ですが、以下の伝説もあります。「日本武尊が武蔵国に向かうとき、軍勢を従えてコウノ台に来たのですが、太日川(江戸川)をはじめ多くの河川が、洲を作って流れているのを見て、なんとか徒歩で渡ることはできないものかと思案していました。この時、コウノトリが飛んできて、浅瀬を教えたので尊の軍勢は難なく武蔵国へ渡ることができたといわれます。尊はコウノトリに褒美としてこの台地を与えました。以後、コウノトリに与えた台地からコウノ台の地名が起こったと言われます。国府台は下総の国府が置かれたことから、この名がついたことに間違いはないのですが、上記の伝説から鴻之台とも書くようになったのです。」このようにコウノトリとも深い関係があることから、健やかに大きく羽ばたくことを願い、校章(右上)が制作され、更に校歌の冒頭、「緑はるかに 飛べこうのとり～」も創立翌年に制定されましたが、このような背景があるようです。また、この伝説を地域に目を向けますと、真間山下にある国府神社は祭神が日本武尊で、御神体が「コウノトリのくちばし」となっています。